

## 蒲郡商店街振興組合(蒲郡市) 【代表者:理事長 武田辰美】

### キャッチフレーズ

「異空間」の商店街から「日常生活の場」の商店街への拡大！  
日常の買い物の場として、また歩いて楽しい商店街へ

### 活性化モデル商店街としてのモデル性

コア事業である“福寿稲荷ごりやく市”を拡充しながら、さらに日常的な集客力アップにも挑戦する生活支援型商店街

### 商店街の将来ビジョン

蒲郡商店街は、厳しい現状を打破するため、商店街を歩行者天国にしてテント市や各種イベントを行い、商店街を一種の異空間にする「福寿稲荷ごりやく市」を平成 16 年 9 月から開始し、現在まで 20 回以上継続してきている(年 6 回)。

これにより、イベント開催時は毎回 5,000 人近くの集客があり、商店街も大いに賑わうが、反面、平常時の来客や売上の増加には繋がっておらず、多くの来街者に日常生活の場として商店街を利用してもらうことが今後の課題である。

この状況を踏まえ、定着した「福寿稲荷ごりやく市」を核に、平常時にも足を運んでもらえるような商店街活動を展開する。ごりやく市をさらに充実させ、ごりやく市を契機とした空き店舗解消に努めるなど、普段の買い物にも利用してもらえる商店街を目指す。

### 具体的に取組む事業内容

#### 福寿稲荷ごりやく市の充実 (20 年度～22 年度)

- ・ごりやく市の通年ポスター・チラシを作成しさらに周知を図る。
- ・地域の高校や大学へごりやく市への参加(イベントやボランティア)を促し、商店街へ馴染みを持ってもらい、ごりやく市の集客増加・普段の購買増加を目指す。
- ・ごりやく市で実施している紙芝居を拡充し、空き店舗などを利用して定例的に実施し、子ども及び付き添いの大人の集客を目指す。

#### シャッターペイントの実施 (20 年度～22 年度)

店舗シャッターに通り全体でストーリー性のあるシャッターペイントを施し、イベント開催時以外でも来て楽しめる商店街を創出する。

#### 商店街マップの作成 (20 年度～22 年度)

前回作成時(平成 15 年)から状況が変わっているため、新規に作成し、各個店への集客増加を目指す。

#### 空き店舗の解消 (20 年度～22 年度)

店舗を貸すことに抵抗のある家主も多いが、ごりやく市開催時だけ一時的に店舗を借りて行う事業を活発化させ、常時開店できる空き店舗活用事業に取り組む。